

# 平成24年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3カ月に1回)実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

平成24年2月(次回調査は平成24年5月)

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、3カ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、3カ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、3カ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 94.8%(145名/153名)

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	95	65.5%
女性	43	29.7%
不明	7	4.8%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	45	31.0%
沿岸南部	93	64.1%
不明	7	4.8%

#### ③年齢別

市町村別	人数	割合
39歳以下	29	20.0%
40歳代	45	31.0%
50歳代	42	29.0%
60歳以上	22	15.2%
不明	7	4.8%

#### ④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	80	55.2%
被害なし	65	44.8%
不明	0	0.0%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)  
55名(39.9%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)  
41名(29.7%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業、農業の従事者/雇用支援機関、金融機関の関係者)  
42名(30.4%)
- ・ 未回答 7名(4.8%)

#### ■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。  
「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町  
沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※第1回いわて復興ウォッチャー調査は、調査票の印刷、発送、回収、集計等について、復興庁からの支援をいただき実施しました。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「あまり回復していない」が29.0%（42件）、「回復していない」が27.6%（40件）となっており、両者の合計は56.6%（82件）であった。

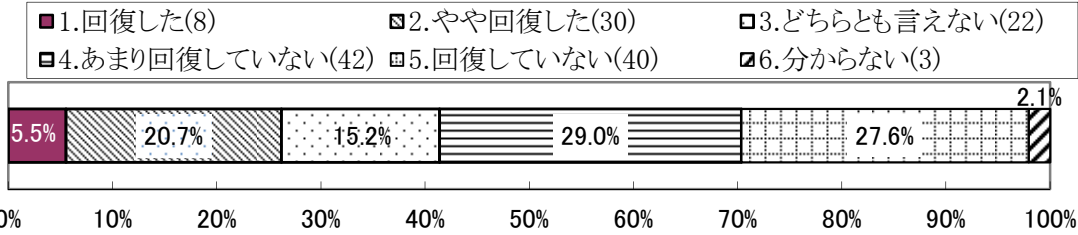
地域別では、沿岸北部は「やや回復した」（28.9%）の割合が最も高いのに対し、沿岸南部では「回復していない」（35.5%）の割合が最も高かった。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況についても、「あまり進んでいない」又は「進んでいない」の割合が半数以上であった。

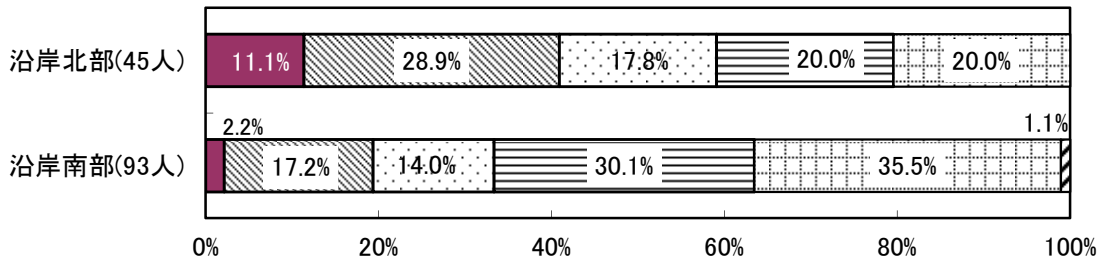
回復度や進捗状況を判断した理由については、生活に必要な環境が回復しているとの回答もあるが、住環境や雇用に関する不安があるとの回答が多かった。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

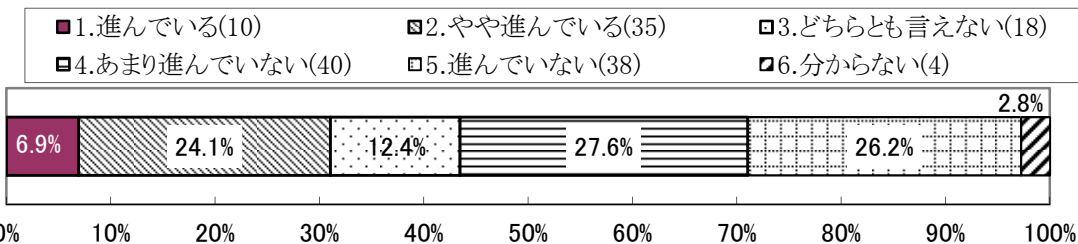


#### <地域別>

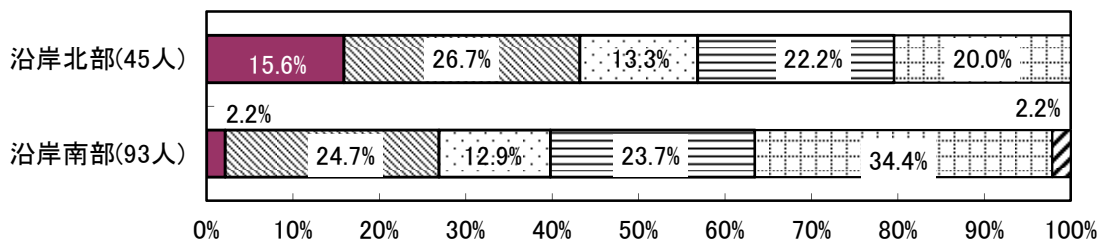


#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」又は「1.進んでいる」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気、ガス、水道、燃料等生活に必要なものに不便はない。三陸鉄道の復旧も進んでおり、郵便物、宅配等もきちんと届くようになった(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
「2.やや回復した」又は「2.やや進んでいる」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店も回復し、買い物も自由にできるようになったが、がれきが山積みのまま。それを見るときいつまでも震災の記憶がよみがえってくる(30歳未満 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・がれき撤去が進み、仮設の商店も増えてきているが、がれきを撤去した土地が空き地のままで、これからのまちづくり計画が見えてこない(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設住宅の不都合、不具合も少しずつ改善されている。社会福祉協議会の巡回、住民と仮設住宅支援員の協働により住民の気持ちも明るくなってきた(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設住宅の住民は、高台に住居を移転するのか、公営住宅へ入居するのかに関心が移っている。早急に移転計画を策定し提示してほしい(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設、仮設店舗の開業により町並み、生活、雇用の再建も進んできているが、いまだ失業者が多数おり、回復したとはいえない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設住宅から病院、商業施設に行くバスが運行され、多少は生活の回復が進んでいる(30歳未満 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」又は「4.あまり進んでいない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が4人以上でも仮設住宅は4畳半2間で窮屈。家を再建しようにもどこに建てるか、前の土地はどうなるのか分からない。求人も期限付きが大半で不安(30歳未満 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・生活はできているが今後のことが見えてこない。あと一年で仮設住宅を本当に出ることができるのか不安(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・仮設に入り一息つき、これから家族で住宅再建や生活設計の話し合い。高齢社会なので若い人のUターン、職場確保が再建に不可欠(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設住宅に入居しているが、住宅の再建がどうなるのか分からない。被災企業の再建も進んでおらず、今後の雇用動向も不透明(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
「5.回復していない」又は「5.進んでいない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅に入り、これから復興だと思っていたがそれから一向に進まない。住人のイライラ感や疲れも相当増している(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・仮設住宅では水道管が凍結し、結露がひどく、湿気によりカビが発生している。年配の方は自分の畑で野菜を栽培することができないことがストレスに(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・船や会社をなくし失業したままの人が大勢いる。一年たっても回復したと感ぜられない。家を再建するため、毎日何とか頑張って節約する生活(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・一日も早く浸水した用地を買い取り、住宅の再建計画を示してほしい。生活に不便はないが精神的に不安を感じる(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連 :小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「あまり回復していない」が31.0%（45件）、「回復していない」が28.3%（41件）となっており、両者の合計は59.3%であった。

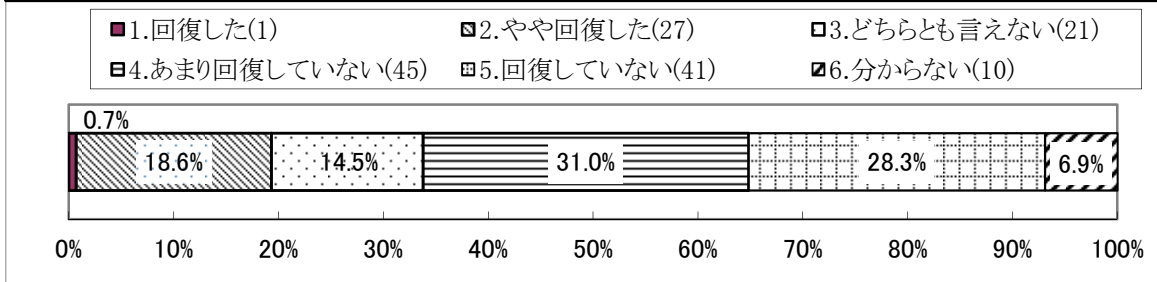
地域別では、沿岸北部は「やや回復した」「あまり回復していない」の割合がそれぞれ26.7%と最も高いのに対し、沿岸南部では「回復していない」（39.8%）の割合が最も高い。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況についても、「あまり進んでいない」又は「進んでいない」の割合が半数以上であった。

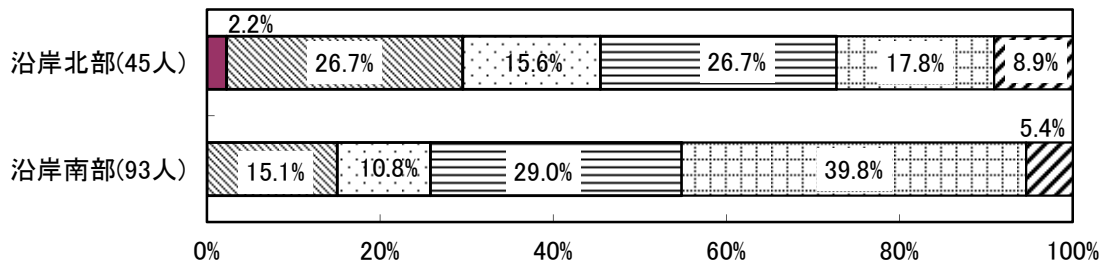
回復度や進捗状況を判断した理由については、水産業等が少しずつ回復しているとの回答もあるが、農業の復旧状況や仮設店舗・工場の先行きについて不安があるとの回答が多かった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

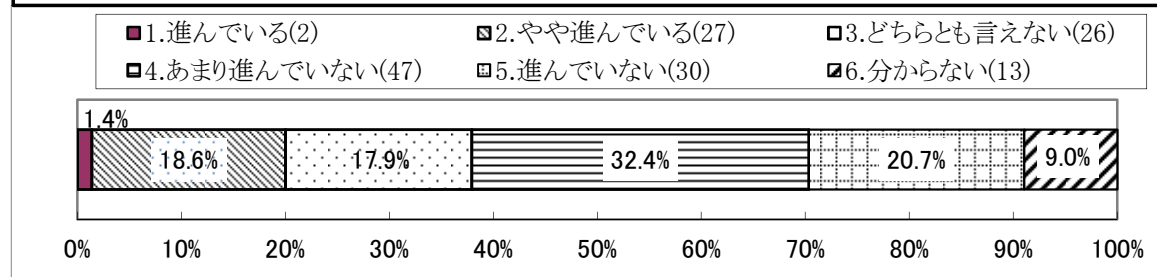


#### <地域別>

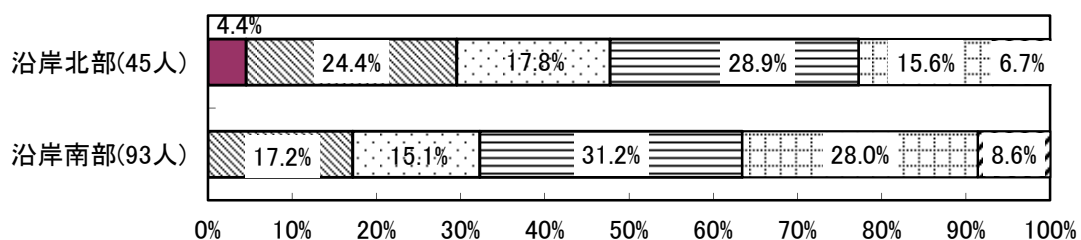


#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の（3カ月間程度）地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」又は「1.進んでいる」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産業は震災前と変わらないくらいに戻っている感じがする。特に今年はマグロが揚がるなど景気も良いと感じる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
「2.やや回復した」又は「2.やや進んでいる」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮設店舗の建設が始まっている。また、グループ補助金や補助金の概算払い開始、大震災復興資金等は企業の事業再建や資金繰りの改善に寄与している(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>水産加工業の営業再開が進み、多くの求人募集がある。また、仮設の店舗や事務所も増え、漁船製造・修繕、宿泊関係は仕事が増えている(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>定置網は全部回復し、養殖も6割まで施設数を確保できた。あとは加工場、種苗施設、ふ化場の早期構築が必要(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋のさんま漁の時期は水産加工場の復興が進んだが、再開は半分以下で規模も震災前よりかなり縮小。3次補正予算成立後、企業の設備復旧が増加(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>復興関連の業界は大きな需要があるが、それは数年限り。地域に根付いた産業である農林水産業は必ずしも回復していない。後継者、資金の課題もある(30歳未満 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>水産業では、再生に取り組んでいる方の力強い動きが見られる。地域経済については、金融・制度等の支援が問題になっている(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」又は「4.あまり進んでいない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部事業主は中小企業基盤整備機構の支援を待たず、自力でプレハブの仮設店舗を建てて営業を再開しているが、場所が点在しているため集客力が弱い(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>被災した漁船の整備は2割程度で、漁船、養殖施設は共同使用。水揚げに不可欠な漁港岸壁、魚市場、冷凍庫、製氷施設、加工場はまだ復旧していない(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>資材が納入されず、養殖施設の復旧は遅れている。水産加工場も秋漁に向けて早期復旧したところ以外稼働しておらず、活気がない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>大型商業店舗が再開し、ようやく日用品を買うことができるようになったが、震災以前の商店は仮設での営業。漁港や漁船の整備もまだまだ回復には遠い(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>水産加工場が被災したため職を無くした人が多い。仮設商店街はできたが品物、飲食店ともに少なく内陸まで行かなければならない(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>公共施設、工場、商店等は元通りになっていない。仮設のままでは回復とは呼べない。住民の他地域への流出もあり、地域経済の先行きが不安(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「5.回復していない」又は「5.進んでいない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店、事業所は自力再開を始めたが顧客、地域人口の減少に直面している。また、支援物資により地元商店は商品が売れず苦戦(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>回復しているのは飲み屋、旅館・ホテル、スーパー等一部だけ。買わなければならないものはたくさんあるが、収入がなく出費ばかりで先が見えない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>農業は、津波で土、機械、ハウスを流され、元に戻るには何年かかるか分からない。機械を買わなければ何もできないが金銭的な余裕がなく前に進めない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>若い人たちはがれき処理作業のアルバイトで生活を維持している。商店街も地域がどういよう方向に進んでいくか分からず方向性を見出せない状況(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連:小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「あまり達成していない」が15.2%（22件）、「達成していない」が64.8%（94件）となっており、両者の合計は80.0%であった。

地域別では、沿岸北部、沿岸南部とも、「達成していない」の割合が最も高い（沿岸北部57.8%、沿岸南部69.9%）。

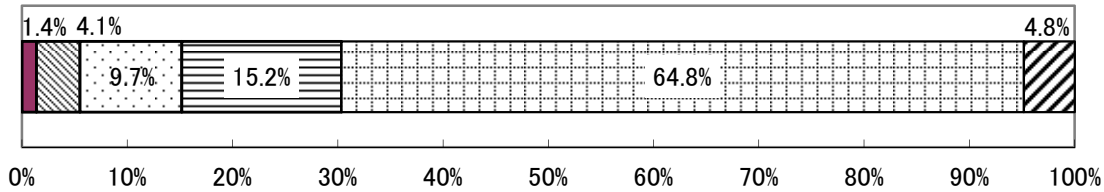
○直近3ヶ月の進捗状況についても、「進んでいない」の割合が59.3%と半数以上であった。

達成度や進捗状況を判断した理由については、復興計画の策定が進んでいるとの回答もあるが、防潮堤等ハード整備が進んでいないことへの不安に関する回答が多かった。

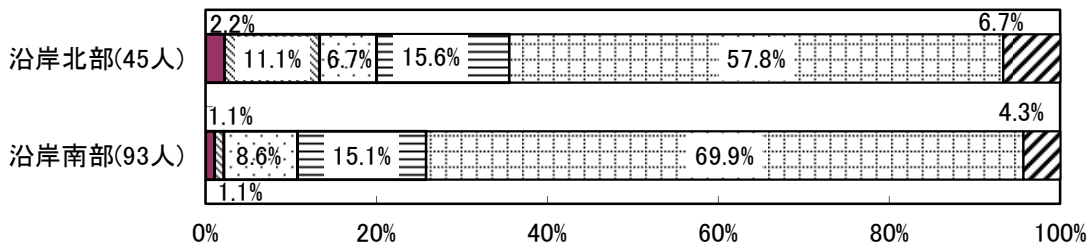
#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

- 1.達成した(2)
- 2.やや達成した(6)
- 3.どちらとも言えない(14)
- 4.あまり達成していない(22)
- 5.達成していない(94)
- 6.分からない(7)



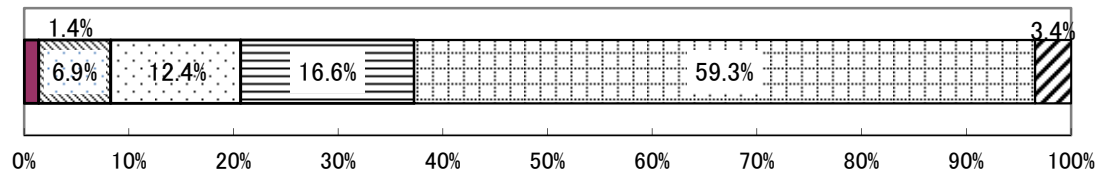
#### <地域別>



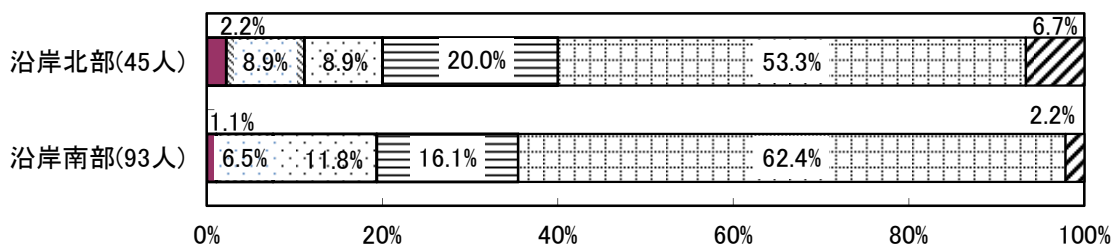
#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？

- 1.進んでいる(2)
- 2.やや進んでいる(10)
- 3.どちらとも言えない(18)
- 4.あまり進んでいない(24)
- 5.進んでいない(86)
- 6.分からない(5)



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の復興計画ができ、住民への説明会も終了し、これから事業が始まると期待。一日も早く、防潮堤と水門の整備をし、安心して生活できるように(70代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全なまちづくりのため行政が説明会を開き、これからのまちづくりを考えていることは理解できるが、まだ形になっていないので何とも言えない(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・冠水する場所があり、市街地には津波の被害にあった建物、学校がまだ残っており、当時のことを思い出す。登下校時にボランティアや警察がいるので安全に通学できている(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防等ははまだ整備されていないが、住民の防災意識は以前よりずっと高い。各自の防災意識や人とのつながりが安全なまちづくりに不可欠(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・震災後、住民はすぐ避難するようになった。しかし、堤防等のハード面が整備されておらず非常に不安な日々。一日も早い整備を(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・安全なまちづくりはあまり進んでいないが生活の回復を最優先してほしいので良いと思う。岸壁のかさ上げは早めに行ってほしい(30歳未満 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がれきが山積みになっている現状では、安全なまちづくりが進んでいるとは感じられない(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・新しい防潮堤ができれば少し安心できるが地盤が沈下しているためとても不安。地域の避難所も浸水しており、高台への避難路も整備されていない(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・防波堤は津波で破壊されたままであり、道路も冠水する。地盤沈下したため、海面がすぐ近くになり、今津波が来たらと思うと恐ろしい(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・防潮堤は被災した当時のままであり、水門の開閉もできない。避難路には街灯もないので不安である(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・土嚢は積まれているが、高潮で浸水しているのが目に見えてはっきりしている。防災無線がまったく聞こえないため不安を募らせている(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・河川堤防の整備が進んでいない。排水路の整備が進んでないため、昨年大雨の時に洪水が起こった。また、河口に砂が堆積し、河川が増水している(30歳未満 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・防潮堤の整備、安全な移転先の確保等の計画案は具体的に提示されたが、すべてについて実行する兆しが見えない(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・地域ごとに説明会は行われているが、まだまだ計画が遅く早い実行を望む。地域はスピード感のある復興・再建を待っている(60歳以上 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・まだまだこれから。今しっかり考えて、より良いまちづくりをしてほしい。そして、私たちにできることは何か考え、行動していきたい(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・安全なまちづくりは今は計画を策定中で、各地区の計画が自治体に提言され始めている。3月中に決まり、来年度から事業が動き出すと思う(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連 :小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

平成24年【第1回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告書  
(平成24年3月)

発行

平成24年3月27日  
岩手県 復興局 企画課

〒020-8570  
岩手県盛岡市内丸10-1  
電話(019)-629-6945  
ホームページ：いわて復興ネット  
[http://www.pref.iwate.jp/~hp0212/fukkou\\_net/index.html](http://www.pref.iwate.jp/~hp0212/fukkou_net/index.html)